

種苗生産拠点が完成

新たな増殖モデルによる資源造成に弾み！



(上) 緑色LED光を照射した水槽
マコガレイの稚魚を飼育

(左) 完成した施設の全景

佐藤樹一郎県知事は「施設を活用して豊かな海づくりを進め、漁業者の所得向上につなげたい」と挨拶。来賓として出席した中根組合長は県の新長期計画に触れ「新しい種苗生産施設は次代の水産業を支える大きな柱。漁業者も11月に開催される豊かな海づくり大会を契機に、元気な産地と元気な担い手の好循環に向け全力で取り組みたい」と祝辞を述べた。

新施設では水槽面積が増大するとともに、閉鎖循環式システムや緑色LED光照射設備など最新技術が導入され、生産能力は2割向上する。瀬戸内海域の重要な栽培漁業対象種であるマコガレイ、ヒラメ、クルマエビ及びガザミに加え、漁業者の要望が強いキジハタも新たに生産される。

大分県種苗生産施設(国東)が完成し、23日竣工式が行われた。昭和50年代に建設され老朽化が進んでいた旧施設を解体し、令和3年度から最新鋭の施設の整備が順次進められた。総事業費は34億6千万円。

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.jf-oita.or.jp/>



基本目標

自ら考え・動き・みんなで実現する
元気な農林水産業

計画の構成・指標

元気な担い手 ↔ 好循環 ↔ 元気な産地

チャレンジ指標
・経営拡大を行った中核的経営体数

チャレンジ指標
・基幹魚種の漁協取扱額

輸出・高付加価値化へのチャレンジ

下支え

基本施策

環境変化に対応し豊かな海を
次世代につなげる水産業への転換

- 1 魅力ある漁業をつくる担い手の育成・確保
- 2 ニーズを捉え持続的に発展する産地づくり
- 3 浜と食卓をつなぐ魚食の拡大と販路の開拓
- 4 豊かな資源とにぎわいあふれる漁村づくり

22日、県庁正庁ホールで計画策定委員会の全体会が開催され案が示された。7月のパブコメ(下記)を経て、県議会の議決日に計画はスタートする。

<https://www.pref.oita.jp/site/public-comment/>

元気な担い手のチャレンジ指標

経営拡大を行った中核的経営体数	基準値 R5	目標年度 R14(累計)
	29経営体	314経営体

元気な産地のチャレンジ指標

基幹魚種の漁協取扱額	基準値 R5	目標年度 R14
	72.5億円	79.1億円

生産活動で生み出した 水産業の客観的な結果指標

産出額	基準値 H30～R4平均	目標年度 R14
	376億円	409億円
輸出・付加価値額	基準値 R4	目標年度 R14
	65億円	73億円

新「大分県農林水産業振興計画」案まとまる

2 面

団体総会

3 面

協会業務受託



4～5面

リレー放流



6 面

水研だより



7 面

就業支援フェア



タイムリー情報

県漁協女性部・青年部



県漁協女性部の総会が2日、青年部の総会が13日、水産会館で開催され、いずれも5年度の事業実績・収支決算、6年度の事業計画・収支予算等を承認した。

青年部では任期満了に伴う役員改選が行われ、山田部長を重任した。



県水産養殖協議会

新会長に 渡邊満晴氏

県水産養殖協議会は16日、県漁協佐伯支店で定期総会を開催し、5年度の事業実績・収支決算、6年度の事業計画・収支予算等を承認した。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、会長に渡邊満晴氏を選任した。



渡邊会長

総 会 開 催

山田和幸部長を重任 県漁協青年部

役 職	氏 名	所属支部
部 長	山 田 和 幸	宇 佐
副 部 長	堀 靖 昭	杵 築
委員(代)	江 本 政 樹	国 見
委 員	石 原 克 人	香 々 地
委 員	松 本 秀 行	くに さ き
委 員	垣 迫 誠	日 出
委 員	山 尾 幹 宣	津 久 見
委 員	竹 田 秀 明	佐 伯
監 事	安 藤 剛 史	白 杵
監 事	富 田 恵 義	上 入 津

県 漁 業 公 社

新理事長に 大屋 寛氏

公益社団法人大分県漁業公社は6月27日、水産会館で第14回通常総会を開催し、5年度の事業実績・収支決算、6年度の事業計画・収支予算等を承認した。5年度決算は、施設建設途上の厳しい生産環境の中、職員の努力により黒字が確保された。

また、人事異動等に伴い理事4名、監事1名が選任され、県農林水産部審議監の大屋寛氏が理事長に選定された。



大屋理事長

県水産多面的発揮対策地域協議会

大塚猛会長(県水産振興課長)は12日、水産会館において通常総会を開催し、5年度の事業実績及び収支決算案が承認された。

また、各活動組織の実績等について、資料により概要説明が行われた。



総会に先立ち恒例の魚類養殖講習会があった。

「人工種苗を活用した養殖ブリの端境期対策」について、まず①令和3～5年度ブリ種苗生産・現地養殖試験の結果を県農林水産研究指導センター水産研究部の山本桂伊研究員が、②令和6年度ブリ人工種苗の販売等の計画を県農林水産部水産振興課の入江隆乃介主任が説明した。また、「県内および近隣県の赤潮発生状況」について、水産研究部の毛利文香研究員が報告した。

次いで、近畿大学水産研究所の白樫正准教授が「海産魚類養殖の寄生虫対策」について講演し、活発な質疑応答が行われた。(▼6面「水研だより」に詳細)

一般社団法人 大分県漁港漁場協会の概要

目 的

当協会は、漁港、漁場及び漁村の総合整備や合理的利用を促進するため、行政機関への連絡調整、誓願及び陳情等を行うとともに、漁港、漁場及び漁村に関する調査、啓発普及を行うことにより、漁業者の生活の安定、向上に努め、大分県の水産業の振興、発展に資する。

事 業

- 1 漁港、漁場及び漁村の整備及び維持管理の促進
- 2 漁港、漁場及び漁村に関する資料の収集及び調査研究
- 3 漁港、漁場及び漁港整備の促進に関する普及宣伝
- 4 漁港、漁場及び漁村に関する講演会、研究会等の開催
- 5 漁港、漁場及び漁村に関する請願、陳情及び意見の発表
- 6 関係団体及び関係行政機関との連絡調整
- 7 その他この法人の目的を達成するために必要な事項

組織図



県漁協は一般社団法人大分県漁港漁場協会(会長:藤本昭夫、姫島村長)から業務委託を受け、7月1日から水産会館2階に事務室を設置して事務を始めた。事務局の体制は、9月に開催予定の定時総会で決まるが、当面の業務は経営管理課、参事、専務理事のラインで行っている。

県漁港漁場協会業務を受託

役 員 名 簿

会 長	藤本 昭夫	姫島村長
副会長	田中 利明	佐伯市長
//	中根 隆文	大分県漁協組合長
理 事	是永 修治	宇佐市長
//	久保須恵人	宇佐地区漁港漁場整備協力会長
//	薬師寺正治	臼杵地区 //
//	鳴海 盛彦	上上津地区 //
//	岡崎 都	大分県漁協女性部長
//	高野 英利	(前)大分県農林水産部審議監
//	(欠員)	
専務理事	(欠員)	
監 事	坂本 政治	上浦地区漁港漁場整備協力会長
//	大河 浅利	保戸島地区 //
参 与	山口甲一郎	県農林水産部漁港漁村整備課長
//	大塚 猛	県農林水産部水産振興課長

沿 革

昭和25年	大分県漁港協会設立(県庁水産課内)
昭和38年	事務所を移転(旧水産会館内)
昭和53年	事務所を移転(大手町「中尾ビル」)
昭和54年	社団法人 大分県漁港協会発足、設計部門新設
平成24年	社団法人 大分県漁港漁場協会発足 ※大分県漁業海洋文化振興協会(事務局:県漁協)の解散により漁場部門を統合)
平成25年	一般社団法人 大分県漁港漁場協会発足 ※法人制度改革
令和 2年	設計部門廃止、職員削減
令和 6年	事務所を移転(水産会館内) 業務を県漁協に委託

九州地区協議会に参加



【お船江跡】対馬藩の御用船を係留した船だまりで、寛文3年(1663年)の造成とされる。満潮時に写真①の水路から船を入れ、写真②の石積み堤に係船し、干潮時に船底を清掃したと言われる。お船江を持つ藩は多いが、見事に原型を留めた近代史上貴重な遺構。

令和6年度九州地区漁港漁場協議会が4日、長崎県対馬市で開催され、中根副会長と事務局が出席した。地元長崎県協会の比田勝尚喜会長(対馬市長)の挨拶、水産庁漁港漁場整備部の田中部長、全国漁港漁場協会の高吉会長及び長崎県水産部の吉田部長の来賓祝辞の後、比田勝尚喜会長を議長に選出して議事に入った。

まず、第73回全国漁港漁場大会への6項目の提案事項について、各提案県の代表が説明しすべて承認された。次いで、次期開催を熊本県に決定した。

翌日は、党内の漁港関係施設等を視察した。



豊かな海を目指し 続く！リレー放流

第43回全国豊かな海づくり大会に向け、「大会記念リレー放流」が続いている。4年の10月に佐伯市鶴見でスタートした放流は、オリンピックの聖火リレーのように県内各地を巡っている。園児や児童たちは稚魚の放流や水産教室を通して水産業や水産生物への理解を深め、県民の大会にむけた機運も高まってきた。

本紙156号では第1回から18回までの状況を報告したので、ここでは19回から40回の様子をお伝えする。

参加、協力された組合員や役職員の皆さん、ご苦労様でした。

第19回 | 5年 9月24日 佐伯市・鶴見公設市場



- ・松浦小児童、松浦幼稚園児36名がイサキの稚魚600尾を放流
- ・つるみ豊魚祭関連行事
- ・水産教室(イサキについて)を開催
- ・ステージで海づくりを宣言

第20回 | 5年10月20日 佐伯市・名護屋湾



- ・蒲江翔南学園児童37名がカジメの胞子を放流
- ・水産教室(藻場の保全について)を開催
- ・名護屋支店の組合員複数名が参加

第21回 | 5年11月17日 佐伯市・福泊海岸



- ・東雲中学校生徒18名がマダイの稚魚80尾を放流
- ・水産教室(栽培漁業について)を開催
- ・海岸清掃も実施

第22回 | 6年3月13日 由布市・小野屋河川敷広場



- ・阿南小学校児童26名がアユの稚魚500尾を放流
- ・大分川漁協組合員より水産教室水産教室(大分川及び大分川の水産業について)を開催

第23回 | 6年4月17日 日田市・高瀬川河川敷



- ・高瀬小学校児童26名がアユの稚魚10000尾を放流
- ・水産教室(アユについて)を開催
- ・川魚の観察会を実施
- ・日田漁協組合員が参加

第24回 | 6年4月25日 佐伯市・番匠川河川公園



- ・上野小学校、明治小学校、切畑小学校児童59名がアユの稚魚10000尾を放流
- ・水産教室(アユについて)を開催
- ・番匠川漁協河村組合長より挨拶

第25回 | 6年5月11-12日 日出町・中間育成施設



- ・一般参加者188名がマコガレイの稚魚2000尾を放流
- ・城下かれい祭り関連行事
- ・中山運営委員長が参加

第26回 | 6年5月14日 豊後大野市・河川公園



- ・犬飼小学校児童22名がアユの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(大野川・アユ・海ゴミの問題について)を開催
- ・アユを観察
- ・大野川漁協若松組合長より挨拶

第27回 | 6年5月15日 中津市・山国川河川敷



- ・樋田小学校、上津小学校児童11名がアユの稚魚5000尾を放流
- ・水産教室(アユについて)を開催
- ・アユの塩焼き体験
- ・山国川漁協宮名利組合長より挨拶

第28回 | 6年5月24日 玖珠町・森川



- ・学びの多様な学校児童12名がアユの稚魚1000尾を放流
- ・水産教室(アユについて)を開催
- ・玖珠郡漁協藤本組合長より挨拶

第29回 | 6年 5月26日
宇佐市・長洲漁港前砂浜



- ・抽選参加者20名がマコガレイの稚魚300尾を放流
- ・宇佐市「長洲浜の市」関連行事
- ・青年部宇佐支部山田部長により水産教室(おさかなクイズ)を開催
- ・青年部員複数名参加

第30回 | 6年 6月 3日
国東市・羽田海岸



- ・富来小学校児童14名がマコガレイの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(海ゴミについて、マコガレイについて)を開催

第31回 | 6年 6月 6日
別府市・関の江海岸



- ・亀川小学校児童、亀川幼稚園児121名がマコガレイの稚魚500尾を放流
- ・水産教室(マコガレイについて)を開催
- ・協副運営委員長より挨拶

第32回 | 6年 6月 7日
大分市・鶴崎橋河川敷



- ・鶴崎小学校児童53名がウナギの稚魚2000尾を放流
- ・鶴崎漁協幸組合長より水産教室(ウナギについて)を開催

第33回 | 6年 6月11日
杵築市・奈多海岸



- ・豊洋小学校児童31名がマコガレイの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(マコガレイについて)を開催

第34回 | 6年 6月14日
臼杵市・的場が浜



- ・海辺小学校児童63名がマコガレイの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(臼杵市の水産業について)を開催
- ・海洋科学高校生徒によるブリの解体ショーを実施

第35回 | 6年 6月21日
姫島村・姫島海水浴場



- ・姫島中学校生徒14名がマコガレイの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(マコガレイについて)を開催

第36回 | 6年 6月21日
杵築市・納屋海岸



- ・東小学校児童47名がアサリの稚貝を放流
- ・アサリの間引きを体験
- ・杵築支店の組合員複数が参加

第37回 | 6年 6月25日
豊後高田市・香々地漁港



- ・香々地小学校、三浦小学校児童40名がガザミの稚ガニを放流
- ・香々地支店組合員より水産教室(岬ガザミについて)を開催

第38回 | 6年 7月 3日
姫島村・姫島海水浴場



- ・姫島中学校生徒24名がクルマエビの稚魚4500尾を放流
- ・初泳ぎを実施

第39回 | 6年 7月 2日
大分市・佐賀関支店



- ・佐賀関小学校児童48名がマダイの稚魚400尾を放流
- ・青年部員により水産教室(佐賀関の漁業)を開催
- ・漁協の荷捌き施設見学、面買い見学

第40回 | 6年 7月 3日
津久見市・長目港



- ・堅徳小学校児童26名がカサゴの稚魚300尾を放流
- ・水産教室(栽培漁業について)を開催

水 研 だ よ り

令和6年度魚類養殖講習会の開催

7月16日に、大分県漁業協同組合佐伯支店大会議室において、「令和6年度魚類養殖講習会」を、大分県水産養殖協議会との共催により開催しました。今回の講習会には協議会会員、大分県漁協職員、中部・南部振興局水産班職員、水産研究部の研究員など74名が参加しました。

講習会ではまず、「人工種苗を活用した養殖ブリの端境期対策」の題目で、水産研究部 山本研究員から「令和3～5年度ブリ種苗生産・現養殖試験の結果」について講演が行われ、8月採卵したものが、端境期となる4～6月に4kgサイズの養殖ブリとして出荷でき、天然由来の3年目のものと比較し、生殖腺の成熟度は低く、身質も良好であったとの説明がありました。関連して、県水産振興課 入江主任から「ブリ人工種苗の販売等の計画」について講演が行われ、端境期出荷の事業化に向けて、8月に採卵し、漁業公社で7cmまで育てた人工種苗を10月から3月まで県南海域で中間育成する計画と、生産した400gの人工種苗を3月に県内養殖業者へ販売する計画について説明がありました。

次に、「県内及び近隣県の赤潮発生状況」の題目で水産研究部 毛利研究員から講演が行われ、鹿児島県・熊本県にまたがる八代海や長崎県橘湾などではカレンア、シャットネラ、コクロディニウム等の赤潮プランクトンにより甚大な被害が出ていること、また大分県でも臼杵湾や佐伯湾でカレンアが増加傾向にあり注意を要するといった説明がありました。

最後に、近畿大学水産研究所 白樫正准教授から「海産魚類養殖の寄生虫対策」の題目で講演が行われました。外部寄生虫であるハダムシ対策として、ハダムシ卵の7～8割は生簀の上層部に付着すること、50～60℃の熱に弱く、2秒で孵化ができなくなること、また垂鉛メッキの金網より銅合金製の網の方が付着物を抑えられ、孵化率が減少すること、遮光シートを生簀上部に張ることでハダムシの寄生を大幅に減らすことができることなどの説明がありました。また、メジナ、カワハギ、アイゴなどはハダムシの卵を好んで食べるので、ブリやヒラマサと混養して飼育することで成長や生残が良くなること、ハダムシが魚に寄生することで魚のエネルギーを搾取することなどの説明がありました。

質疑応答が行われ、特に県内の養殖場でもハダムシは問題となっているため多くの質問が寄せられ、活発に意見が交わされました。

当研究部では、今後とも大分県水産養殖協議会と協力し、養殖業者にとって有益な講習会を実施してまいります。



山本研究員講演



入江主任講演



毛利研究員講演



白樫正准教授講演

講習会会場



漁業就業支援フェア 2024 に参加

7/6 福岡、15 東京、27 大阪

新規漁業就業者の確保を目的に、全国漁業就業者確保育成センターが主催する「漁業就業支援フェア2024」に出展した。

福岡会場には全国から53団体、本県からは中津、香々地、姫島、日出及び佐賀関支店が出展し約60名が来場した。東京会場には全国81団体、本県から佐賀関支店と大分県・大分県漁協が出展し約80名が来場した。大阪会場には全国74団体、本県から佐賀関支店支店と大分県・大分県漁協が出展し約80名が来場した。県と漁協本支店の担当者は、ブースに来場者を受け入れ、情報提供と就業相談に努めた。

このうち福岡会場の姫島支店に来場した1名は、8月もしくは9月に短期研修を受ける予定となった。また、東京会場ではすぐに漁師になりたいと意欲を持った若者など5名、大阪会場では2名と話をすることができた。

このようなフェアを契機に明日の大分の漁業を支える若者が就業してくれることを期待したい。



福岡会場



東京会場



大阪会場



水産研究タイムリー情報

トラフグの放流効果を調査しています！

7月16日 水産研究部 企画指導担当

本県では瀬戸内・九州の関係府県と共同でトラフグの栽培漁業に取り組んでいます。

放流効果を調べるため、7月2日に漁業公社と連携して全長81.5mm、3千尾のトラフグに対し、放流魚と判別できるように右胸びれをカットし、鶴見三栗島周辺に放流しました。

県下8地区の市場で追跡調査を行っていますが、右胸びれのないトラフグを捕獲した時には、水産研究部までご連絡をお願いします。



ヒラメ種苗の現地養殖試験を開始しました！

7月25日 水産研究部 資源増殖チーム

現在、当研究部では耐病性や成長に優れたヒラメの育種に取り組んでいます。7月12日、今後の選抜育種の基礎となる系統のヒラメ種苗(全長約10cm)6,000尾を佐伯市の養殖業者へ出荷しました。今後は、現地で養殖生産を行いながら、種苗の耐病性や成長について調査します。



ワクチン講習会を実施しました！

7月25日 水産研究部 養殖環境チーム

6月21日に養殖業者を対象とした魚類へのワクチン講習会を開催しました。座学と実技を行い、正しいワクチン接種の方法について説明しました。ワクチン接種によって、現場での魚病被害が減少することを期待しています。

なお、ワクチン接種の有無にかかわらず、養殖魚の食品としての安全性は確認されています。



ヒジキ人工種苗を沖出ししました

7月26日 北部水産グループ 養殖環境チーム

春先から初夏にかけてヒジキの種苗生産を行っており、採苗したヒジキはコンクリートブロックに付着させて育苗しています。

今後は飼育室内や天然海域でヒジキの成長に適した条件を探っていきませんが、今回はその一端として、地元漁業者の協力を得て、天然ヒジキの生育がみられる国東市の沿岸部にブロックを設置しました。水温等記録するセンサーも設置し、今後は生長等を追跡していきます。



赤潮に注意してください！

○有害プランクトン「カレニア・ミキモトイ」が
多くの海域で注意・警戒密度を超えています。
○魚介類の管理に十分注意して下さい。

最新情報は県HPへ

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisa/n/210616.html>

7月 1日～	佐伯湾	525～6,300細胞/ml
7月16日～	臼杵湾	800～1,700細胞/ml
7月17日～	津久見湾	95,000 細胞/ml (表層)

赤潮発生場所での対応

- ・投餌は控える
- ・赤潮海域へ魚介類を入れない
- ・赤潮海域から魚介類を避難する
- ・蓄養は控える

(カレニア・ミキモトイの注意点)

魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。(注意密度:200細胞/ml 警戒密度:2,000細胞/ml)

- ・特に、アワビ、サザエ等では海面が着色する前に斃死する可能性があります。
- ・表層が着色しなくても、中層に赤潮を形成していることがあります。
- ・午前中、海色が良くても午後から色が悪くなることがあります。
- ・パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。

第4金曜日の26日、おさかなランド2店舗において国東産の「たちタチ祭り」を開催した。当日はたちウオが残念ながら不漁のため、マダコを試食(約100食)と特価販売を行った。
国東のタコと聴いて足を止める方も多く、試食されたお客様からは「旨味が強くてとてもおいしい」など好意的な意見をいただいた。売れ行きも上々だった。



国東のタコをPR



編集後記

総会を終えたら少し時間ができるといきや、依然として行事が続く毎日である。先月は県の種苗生産施設の竣工式が行われ、今月は当漁協の蒲江加工センターが落成する。豊かな海づくり大会は100日前イベントで本番に向けカウントダウンが始まり、リハーサルも熱を帯びることだろう。

そんな中、7月から県漁港漁場協会の事務が始まった。県漁協に在籍する前、3年間ほど事務局を担当したが、漁港の整備や改修、漁場の造成など水産公共事業を推進する大切な組織だ。

「コンクリートから人へ」などと耳触りの良い言葉で大いに遅れてしまった防災・減災対策を進めるためにも、再びバトンを受け継ぎたい。「人を守るコンクリート」が重要なことは、失われた数年で身に染みた。



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオ
メシ

白蒲重

鰻田屋

このコーナーを執筆する頃は、たいいてい月末が迫っている。それにしても今年の7月末の暑さは異常だ。平熱35度の自分の体温を超える日が続き、冷蔵庫のビールはすぐに品切れになる。
そんな季節にこそ食べたいのが鰻だ。この数年通うのが大分市公設市場に隣接した「鰻田屋」。豊富なメニューの中から、今回は「白蒲重」を選択してみた。蒲焼に山椒はあたり前にうまいが、白焼きにワサビを載せてポン酢でサッパリといったくのも乙なものだ。冷酒とベストマッチ！
3600円とお安くはないが、夏バテで倒れることを考えれば「まあ許せる贅沢」か。ちなみに本紙に取材費はないので、毎回ポケットマネーです。誤解なきよう(笑)。